

教員名	羽入 佐和子 (HANYU Sawako)
所 属	文教育学部人文科学科哲学講座
学 位	学術博士 (1982年 お茶の水女子大学)
職 名	副学長
URL/E-mail	hanyu@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

哲学と科学 / 倫理的視点から見た生命 / 因果性と自由 / 比較思想 / コミュニケーション

◆主要業績

総数 (1) 件

・Sawako Hanyu, The Communication between Jaspers' Philosophy and Oriental Thought, in Studies in European Philosophy from the viewpoint of Comparative Thought vol.2, 「ヨーロッパ近現代哲学の比較思想的研究会」編, pp.1-15, 2006.3

◆研究内容

哲学的人間学とヤスパース哲学をテーマとした。
ヤスパース哲学については、国際ヤスパース協会連盟の主要メンバーを中心として1999年に開始したプロジェクト「カール・ヤスパース研究」がある。この中で、インド、中国の思想とヤスパース哲学の主要概念との比較分析を担当した。

哲学的人間学に関しては、哲学と科学の論理的手法の比較、論理の普遍性、倫理的判断の普遍性を研究課題とした。例えば哲学で人の「心」を対象とするとき、物理的言語による記述の限界が問題になる。この問題を二つの視点から研究した。一つは因果性の議論を手がかりとし、他方は、ヤスパースとハーバーマスを中心としたコミュニケーションの理論を基盤とした研究である。また、論理の普遍性、倫理的判断の普遍性について、カントの認識論、実践哲学を中心に、その理論を哲学的人間学に関連づける研究を開始した。

◆教育内容

理性の意味と因果性の問題を中心的テーマとして講義と演習を行った。

ヨーロッパ哲学史において「理性」がどのような意味を担ってきたかをたどり、「合理性」や「理性的であること」の意味を考察した。それは、現代社会で求められる合理性の意味を明らかにしようと意図している。これに関連して、コミュニケーションの問題を解釈学やハーバーマスの思想も扱った。

また、因果性の問題を、「自由」との関係と哲学的人間学の視点から論じた。人間を哲学の対象とした場合、科学的探究とは異なった手法が必要か否か議論が分かれる。この問題を考察するために、科学的因果性とは何か、それは哲学的にいかに評価されうるかを検討した。

さらに、学部を超えて開設している基礎ゼミでは、人格性や人間の尊厳などの概念を、日常的観点から問い直す試みを行った。この授業は、おもに1年生対象として、哲学的に考えること、理論的に主張することを学ぶ訓練の場でもある。

◆Research Pursuits

I am researching in philosophical anthropology and Karl Jaspers' philosophy.

Concerning Jaspers' philosophy, I have been doing a project on his thought since 1999 with main members of International Association of Jaspers Societies. In this project, I analyzed some significant concepts of Jaspers' thought from the viewpoint of comparative philosophy.

In relation to philosophical anthropology, I am researching in the following problems; deference between philosophy and science, universality of logic and ethical thought. For the purpose to research these subjects, it is important to clear causality, freedom, determinism, or to investigate theories of communication. In connection with the problem of universality, I try to study the philosophy of Kant, Jaspers and Habermas.

◆Educational Pursuits

The main subjects of lectures and seminars were concepts of reason and causality.

In order to clear the meaning of rationality in these days, I concentrated on the concept of reason and rationality in the history of European philosophy on my lecture. In relation to this point, I explained the theory of communication and Hermeneutik.

About the theory of causality, I lectured from the viewpoints of freedom and philosophical anthropology. That is, what human being is, or what the difference between scientific research and philosophical research is.

In my class of introductory seminar on philosophy, we tried to discuss the ordinary and familiar problems philosophically.

◆共同研究例

- ・カール・ヤスパーズの思想的展開
- ・「生命」の全体論的研究

◆将来の研究計画・研究の展望

人間の哲学的生命論研究、人間存在の比較思想的研究をテーマとする。そこで、哲学と科学の論理、倫理的判断の特性や普遍性を研究し、その成果をもとに社会的問題を哲学の観点から分析して論じることを目標とする。具体的には、情報化社会とリアリティーの問題、科学と技術の問題、コミュニケーションの多様性の問題を哲学的に分析する。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・「生命」の哲学
- ・コミュニケーションの文化的差異
- ・人間に関する全体論的研究

◆受験生等へのメッセージ

受験生へのメッセージ：「役立つ哲学」

哲学には二つのあり方があります。すべての人にとっての哲学と、専門家の哲学です。

卒業生が数年ぶりに訪ねてきて、こんなことを言います。

「大学で哲学を勉強して本当によかった。哲学は役に立たないといわれますけど、すっごく役に立っています。」理由を聞くと、他人の言おうとしていることがすぐに理解できる、というのです。

哲学の授業では、まず、自分の思考の柔軟性を高める訓練をします。また、自分の主張を論理的に組み立てることの訓練もします。これらは、広い意味での哲学で、何を専門とするか、将来何を職業とするかにかかわらず「役に立つ哲学」として、哲学の重要な側面だと考えています。